

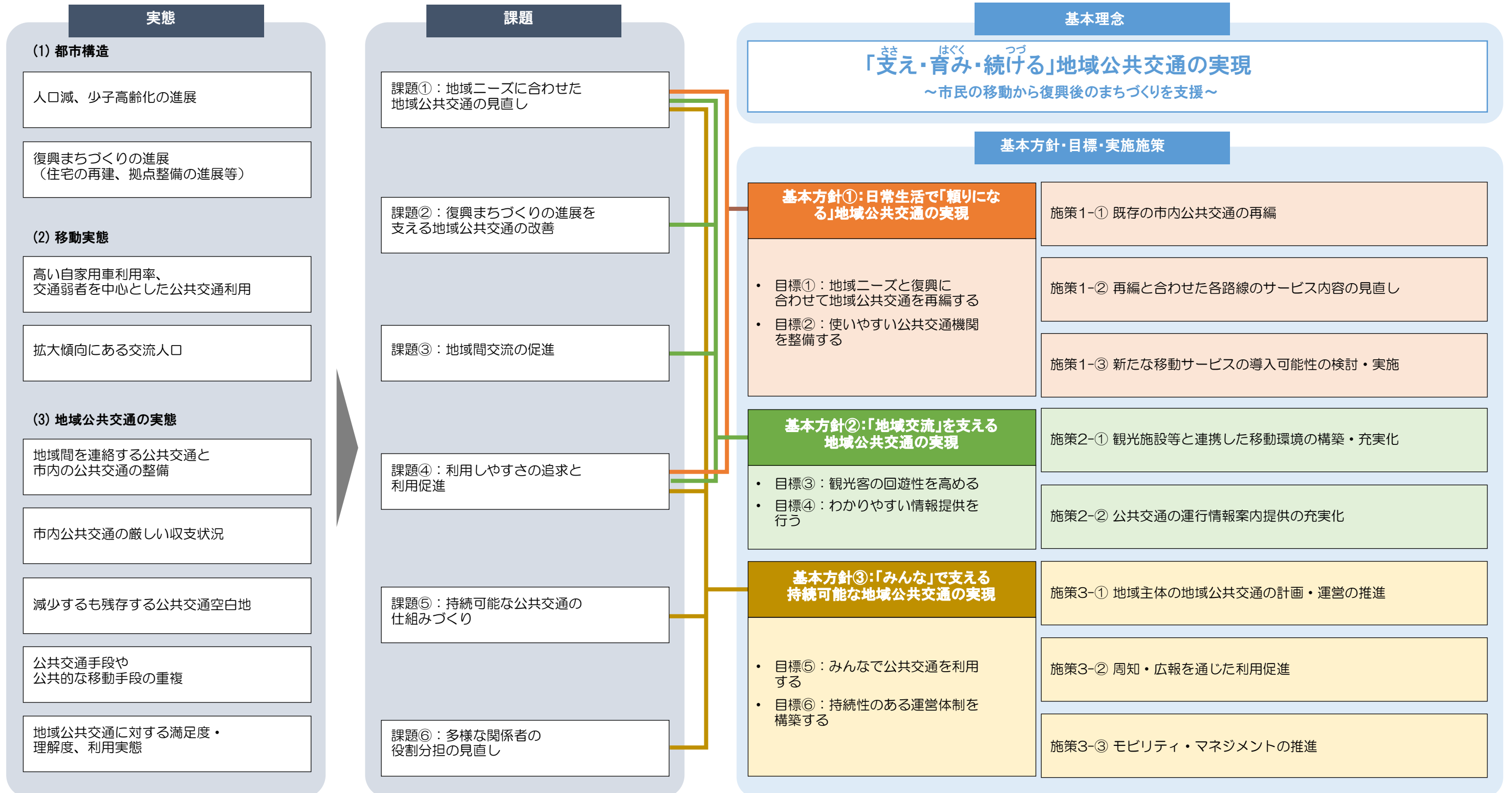
計画の目的

今後の持続可能な地域公共交通運営の実現に向けた基本方針と施策体系を示すことを目的として、地域まちづくり、観光振興、福祉、教育など様々な地域課題を解決するまちづくり戦略の一環として作成するものです。

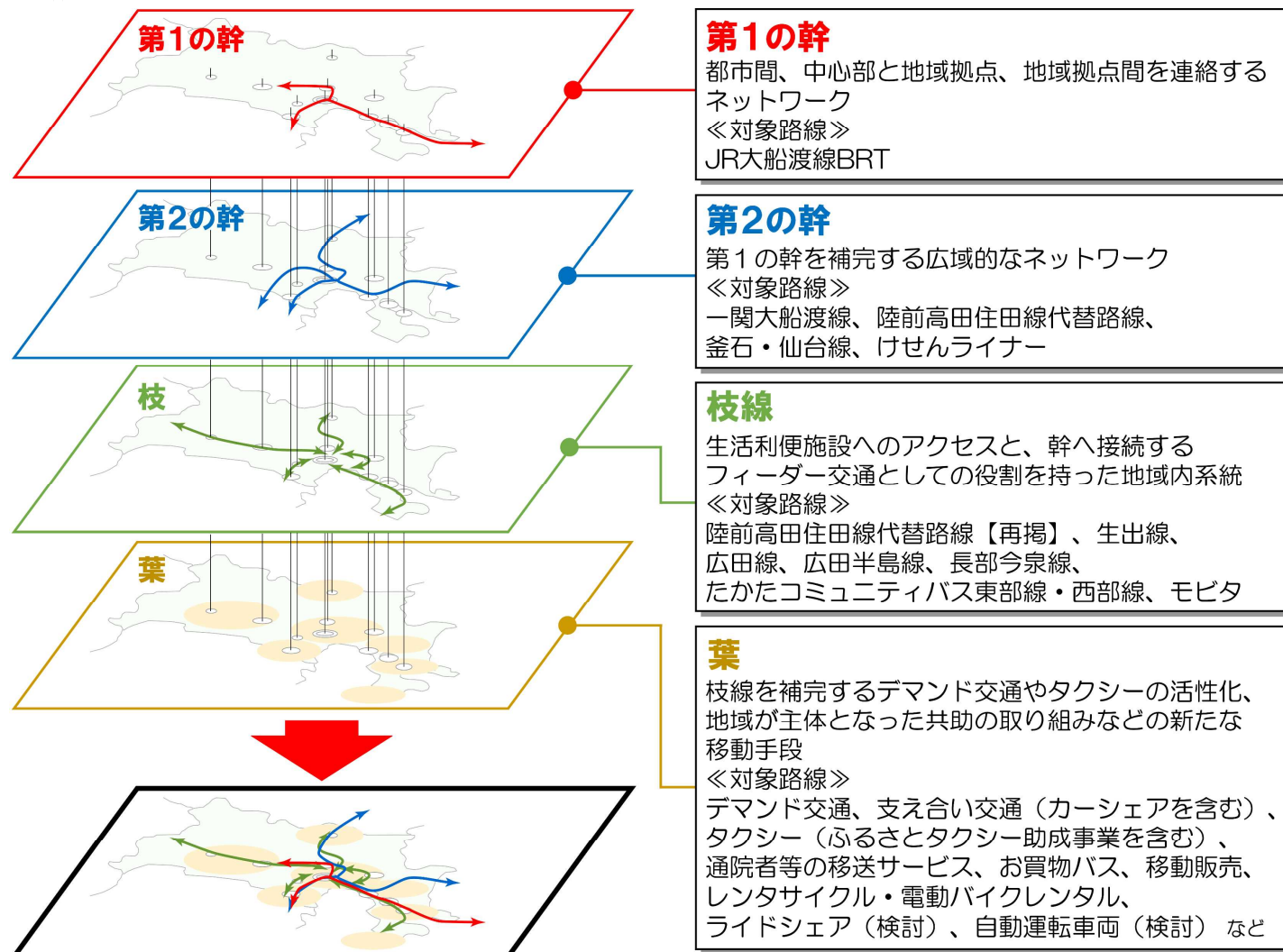
関連する計画

「陸前高田市まちづくり総合計画」と整合を図り、まちづくりの一環として地域公共交通に関わる事項を位置づけます。その他、本市における関連計画（策定中のものも含む）や、岩手県の「岩手県地域公共交通計画」とも整合を図ります。

基本方針・目標・実施施策



地域公共交通ネットワークの全体構想



事業推進方法(★印をつけている施策は他の関連計画と連動するもの)

基本方針① 日常生活で「頼りになる」地域公共交通の実現

施策1-① 既存の市内公共交通の再編

- ・陸前高田駅を中心としたハブアンドスポーク型の公共交通網の形成維持★
- ・主要な駅や停留所の機能充実化
- ・【新規】面的な移動手段の強化（タクシーを中心に据えた公共交通網の構築）
- ・広域幹線軸との接続・空白地対策
- ・【一部新規】デマンド交通のエリア検討、デジタル技術の活用による見直し
- ・【新規】盛岡圏・仙台圏など広域的な移動手段の確保維持

など

AIデマンド予約アプリのイメージ

施策1-② 再編と合わせた各路線のサービス内容の見直し

- ・【新規】ラストワンマイル対策としての経路、頻度の見直し
- ・再編と合わせた運賃体系の見直し



ハブアンドスポーク型の公共交通ネットワークのイメージ

基本方針① 日常生活で「頼りになる」地域公共交通の実現

施策1-③ 新たな移動サービスの導入可能性の検討・実施

- ・【新規】「支え合い交通」の拡大に係る検討
- ・【新規】グリーンスローモビリティの更なる活用可能性の模索
- ・シェアリング事業などの導入可能性の検討
- ・【一部新規】様々な移動手段における自動運転技術の導入検討
- ・【一部新規】スクールバス混乗をはじめとした分野横断型での事業再編の検討

など



支え合い交通「らいじん号」
資料：東海新報



自動運転走行実証実験の様子
資料：高田松原津波復興祈念公園

基本方針② 「地域交流」を支える地域公共交通の実現

施策2-① 観光施設等と連携した移動環境の構築・充実化

- ・観光地における2次・3次交通の構築
- ・【一部新規】観光資源のひとつとしての移動手段の整備検討
- ・観光ルートの設定



電動ゴルフカートによるガイド付きツアー
資料：東海新報



JR大船渡線BRTにおける運行案内の提供

施策2-② 公共交通の運行情報案内提供の充実化

- ・運行情報案内提供の充実化

基本方針③ 「みんな」で支える持続可能な地域公共交通の実現

施策3-① 地域主体の地域公共交通の計画・運営の推進

- ・地域主体の移動サービスの導入検討
- ・【一部新規】既存の地域公共交通会議などを活用した市民意見を継続的に取り入れる仕組みづくり
- ・【新規】収支率の改善や運転手の確保による公共交通の持続性の確保
- ・個別路線の利用活性化策の検討
／地域企業・商業施設等との連携
- ・自動車からの「卒業」運動

など

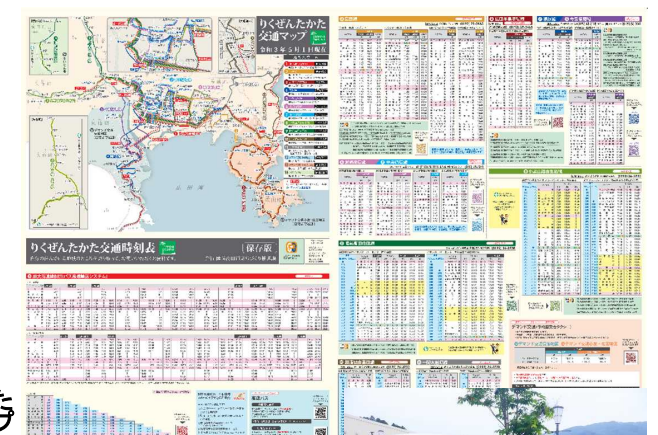
施策3-② 周知・広報を通じた利用促進

- ・りくぜんたかた交通マップの利活用
- ・【新規】「移動」を軸とした様々な支援サービスの一元的な情報提供

りくぜんたかた公共交通マップ

施策3-③ モビリティ・マネジメントの推進

- ・住民・転入者向けモビリティ・マネジメントの実施
- ・児童・生徒向けモビリティ・マネジメントの実施
- ・「公共交通スマートチャレンジ月間」への継続的な参加



バス体験乗車会の様子



評価指標の設定

成果① 移動機会の確保 ⇒【指標】利用者が多い施設において半径300m以内に停留所を設置

成果② 利用者の満足度の維持・向上

⇒【指標】市内公共交通利用に対して「満足している」又は「やや満足している」と答えた市民の割合を70%以上

成果③ 観光2次・3次交通の確保 ⇒【指標】中心市街地と観光地等を周遊可能な交通手段の数5種類以上

成果④ 事業効率の向上 ⇒【指標】全路線合計の収支差を年間マイナス6,000万円以内

成果⑤ 公共交通機関利用者数 ⇒【指標】利用者数を年間16,300人まで増加

成果⑥ 地域と連携した公共交通 ⇒【指標】地域主体の移送サービスに取り組む組織5団体以上

実施スケジュール

施 策 (★は他の上位・関連計画と連動する施策)		陸 前 高 田 市	J R 東 日 本	交 通 事 業 者	地 域 住 民 等	地 域 企 業 等	R6	R7 第2期復興・ 創生期間 終了	R8	R9	R10 最終評価 年度	備 考
(1) 日常生活で「頼りになる」地域公共交通の実現												
施策1-① 既存の市内公共交通の再編	・ 陸前高田駅を中心としたハブアンドスポーク型の公共交通網の形成★	●	●	●								
	・ 主要な駅や停留所等の機能充実	●	●	●								
	・ 【新規】面的な移動手段の強化(タクシーを中心に据えた公共交通網の構築)	●		●								
	・ 居住地及び施設等の立地、道路整備等と連動した段階的な見直し	●		●								
	・ 効率化を意識した幹線・支線区分の明確化	●	●	●								年度ごとに運行方針を見直し
	・ 広域幹線軸との接続・空白地対策	●	●	●								
	・ 【一部新規】デマンド交通のエリア検討、デジタル技術の活用による見直し	●		●								
	・ 【新規】盛岡圏・仙台圏など広域的な移動手段の確保維持	●	●	●								
施策1-② 再編と合わせた各路線 のサービス内容の見直し	・ 【新規】ラストワンマイル対策としての経路、頻度の見直し	●		●								
	・ 再編と合わせた運賃体系の見直し	●		●								
施策1-③ 新たな移動サービスの 導入可能性の検討・実施	・ 【新規】「支え合い交通」の拡大に係る検討	●			●							
	・ 【新規】グリーンスローモビリティの更なる活用可能性の模索	●		●	●	●						
	・ シェアリング事業などの導入可能性の検討★	●			●	●						
	・ 【一部新規】様々な移動手段における自動運転技術の導入検討	●			●	●						
	・ 【一部新規】スクールバス混乗をはじめとした分野横断型での事業再編の検討	●	●	●		●						
	・ ふるさとタクシー助成事業の維持及び事業内容の検討	●		●								
(2) 「地域交流」を支える地域公共交通の実現												
施策2-① 観光施設等と連携した 移動環境の構築・充実化	・ 観光地における2次交通・3次交通の構築	●	●	●		●						
	・ 【一部新規】観光資源のひとつとしての移動手段の整備検討	●				●						
	・ 観光ルートの設定	●	●	●		●						
施策2-② 公共交通の運行情報 案内提供の充実化	・ 運行情報案内提供の充実化	●	●	●								計画期間中継続的に実施
(3) 「みんな」で支える持続可能な地域公共交通の実現												
施策3-① 地域主体の地域公共交通 の計画・運営の推進	・ 地域主体の移動サービスの導入検討 【『支え合い交通』の拡大に係る検討』より一部再編】★	●			●							
	・ 【一部新規】既存の地域公共交通会議などを活用した 市民意見を継続的に取り入れる仕組みづくり	●			●							計画期間中継続的に実施
	・ 交通事業者にとって継続的な公共交通事業の運営	●	●	●								計画期間中継続的に実施
	・ 【新規】収支率の改善や運転手の確保による公共交通の持続性の確保	●	●	●								
	・ 個別路線の利用活性化策の検討／地域企業・商業施設等との連携	●			●	●						計画期間中継続的に実施
	・ 市民による停留所の維持管理	●			●							計画期間中継続的に実施
	・ 自動車からの「卒業」運動★	●		●	●							計画期間中継続的に実施
	・ りくぜんたかた交通マップの利活用	●			●							計画期間中継続的に実施
施策3-② 周知・広報を通じた利用促進	・ 【新規】「移動」を軸とした様々な支援サービスの一元的な情報提供	●	●	●								計画期間中継続的に実施
施策3-③ モビリティ・マネジメントの推進	・ 住民・転入者向けモビリティ・マネジメントの実施	●			●							計画期間中継続的に実施
	・ 児童・生徒向けモビリティ・マネジメントの実施	●			●							計画期間中継続的に実施
	・ 【新規】「公共交通スマートチャレンジ月間」への継続的な参加	●			●	●						計画期間中継続的に実施